地域農産資源の利府梨の活用と流通・消費者とのパートナーシップづくり

～季節性の梨を、地域振興と賞味期限のない消費へ導くには～梨ふ愛すプロジェクト

宮城県利府高等学校自然科学部＆利府町地域おこし協力隊

代表：　三浦大輝（高校2年）

みどり戦略との関連

1. 持続可能な農業　　地域資源の活用と流通・消費者とのパートナーシップづくり
2. 長期保存のできる農産品　　季節性の梨を、冷凍食品として賞味期限のない消費へ
3. 人材育成・労働安全性　　年間を通じた梨の育成について、農業指導を受けながら地域の農家を支援
   農業支援の過程で見られる安全性の課題を、高校科学部の視点で解決への方向を探る

食品廃棄リスクを回避

地元再発見・知名度向上

現状課題の洗い出し

目的・背景 *取組を行うこととした背景、課題等*

現在、利府町は和梨生産全国100位、県内2位（県内シェア25％(2)）

町内割烹民宿での水・農業資源の聴取

140年前から開拓者が利府梨を植えて始まった土地
明治17年（1884）年、約20アールの水田を畑に150本の梨の木 (1)

11月自然科学部撮影

[利府駅前2号公園}

豊富な湧き水で米も隠れた名産

自然科学部による校地内や近隣休耕田で野菜の栽培

近隣大郷町・利府町内でも継続した麦等も栽培（R4～）

ドローン撮像：自然科学部（DJI Mavic Airほか）

取組内容　*取組を行うこととした背景、課題等*

・便利な割に産業構造が薄い
・特産品への深い愛着があるかと言えば、そこまでではない

町の皆さんから名物調査

人口増えるには・・・

生活には便利だけど産業が・・・

交通の便何とかして

活動内容①梨の現状 *課題等*

・町を挙げての知名度向上は盛ん。
・利府街道沿いに秋になると梨販売店舗が並ぶ。近郊では知名度もある。
・近郊だけでなく、もっと広域に知名度を上げたい。
・一見地味な梨を、様々な世代に手に取ってもらうきっかけになりたい。

手間がかかるため離農者も出てきている

・梨の品種は月により分散

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
幸水					収穫		
豊水						収穫	
二十世紀						収穫	
長十郎	受粉		摘果	消毒		収穫	
かおり						収穫	
あきづき						収穫	
新高							収穫

部活動で協働

利府町観光協会(1)、利府役場より聴取

摘果作業

街道沿いに梨販売店舗が並ぶ

活動内容②梨製品開発 *課題等*

・米を使用？団子？あんこ？
・*アイス？老若男女に受け入れられる？*

コンセプト
大事なアナタに届けたい
「ご褒美パフェアイス」

団子は水分調整が難しい

梨果肉冷凍そのものは硬くなる！

組み合わせは・・・
きな粉・ラッシー–
ベリー・ラムレーズン
ブルーベリー・アラザン
黒蜜・イチゴ・マンゴー
バニラ・抹茶・ソーダ
そして梨果肉・・・

トップは
梨コンポートにしよう！

結果　売り出し　*課題等*

・
4分の一サイズで、仙台市のラーメン店で提供

提供方法は？

ワイングラスでおしゃれに！

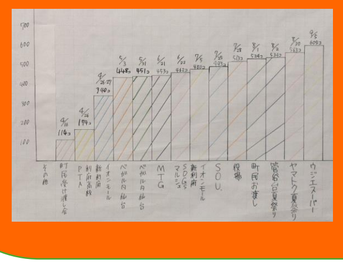
ミントものせよう

量販店・ショッピングモールイベントでも販売促進

考察

・地味な和梨も、組み合わせとおしゃれさでアピール
・目立つものに仕上げる事には成功
・ただ、手間がかかるので、業者選定に課題
・原価率が90％ほどで、利益が薄い・・・
・普通サイズで￥900は一般学生には高め。
・料理店での提供でミニ版が有効だった・
・組み合わせ素材を厳選してミニ版が有効

9月から販売
夏でない時期に
どう売り出すか？



地域とのこれから

・町役場と連携し、地域産品として活用を促す。
・ふるさと納税
・継続的な地域や学校内での呼びかけ
・*SNSなどで活用するレシピを募集や共有をする*

課題

・梨を題材に、まだまだ習得・伝承するべき技術も多い。
・継続的な産品の広報
・梨産品の多品種がある利府の特徴を、もっと商品の開発に細分化させて活用したい

引用文献

（1）NPO法人利府町観光協会https://www.rifukankoukyoukai.com/
（2）ジャパンクロップス
https://japancrops.com/crops/japanese-pear/

謝辞

次の事業者の皆様に販売の機会を頂いております。
ウジエスーパー利府店様・ラーメンみそ漢様（仙台市宮城野区）
また、イベントでイオンモール新利府店様、ベガルタ仙台様、生鮮ヤマトク利府店様でも機会を頂きました。有り難うございます。